

武尚学

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 7. 4. 28

発行ナンバー 1174号

春季県大会（2回戦）の結果

● 県大会2回戦 対県立川越高校

学校名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
市立浦和	1	1	1	1	0	0	0	0	0	4
県立川越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

県大会2回戦が行われました。

この日のカード（県立川越高校の皆さんには失礼な言い方になりますが）ほとんどの県内高校野球ファンの方々は、大宮東高校 対 本庄東高校になると思われていたのではないのでしょうか？進学校の県立川越高校と市立浦和高校が1回戦で奮闘、見事両校共に2回戦へコマを進め対戦するという形になりました。

今大会は進学校がたくさん県大会に進出しました。浦高（県立浦和）、川高（県立川越）、春高（春日部）、松高（松山）そして市高（市立浦和）、ただ、私個人的には（市高は）一緒のグループではないと感じています。市高以外は男子校、市高は共学校だからです。少なくとも市高より男子生徒が2倍以上いて（3倍ぐらいいる学校も）部員数確保等で困っていないからです。

他の進学校より長く生き残るぞ！

そんな合言葉でスタートした大会でした。

まさか（勝ち上がって）進学校同士の対戦になるとは・・・それは想定していませんでした。

県ベスト16に進出（夏のシード権獲得）しました。選手達と共に「充実の春」を味わっています。たくさんの応援等、ありがとうございました。

次戦はすぐ（29日・対市立川越高校）。

引き続きよろしくお願い致します。

「狙い」あり

先日、埼玉栄高校の1年生に来ていただき（入学・入部したばかり、県大会直前でしたが）1年生同士の試合をさせていただきました。

狙いはたくさんあります。

◎私立強豪校の部員から何か感じてもらいたい。

（世の中には野球が上手な選手がいることを理解する。またその逆、同じ高校生なんだというようなことを感じることも大事）

◎「試合」を通じて何かを感じて欲しい。

新入生部員の活動にありがちな、声出し、トレーニング等ばかりやらされていると、自分自身の考えで動けなくなったりする。野球選手は実戦経験を経て上達していきます。部員数が多くて上記のような活動しか出来ない子達を追い抜く活動をしたいと考えています（市高野球部は基本、常に全員で同じ練習をしています）。

◎楽しさと悔しさ

試合をすれば必ず「成功＝楽しさ」や「失敗＝悔しさ」を経験します。それらを今後の活動のエネルギーにしてもらいたいと考えています。市高の場合、新入生部員は3年生が抜ける（引退する）3か月後には戦力になってもらわなければなりません。そのためには入学直後から（試合を通じて）楽しさや悔しさを味わう必要があると考えています。

この日の試合は、16対16の引き分け。

私の「狙い」通り、良い部分も悪い部分も共にたくさんありました。すべて今後の肥やしにしていって欲しいと思います。

栄高校の皆さん、ありがとうございました。